

# WTT ユースコンテナーバンコク 2026



主催 (公財)全国高体連卓球専門部

1.大会名 WTT ユースコンテナーバンコク 2026

2.大会派遣期日 令和8年5月16日(土)~5月22日(金)

※集合5月17日(日)8:45 関西国際空港国際線出発ロビー

(前泊者5月16日(土)17:00 関西エアポートワシントンホテル集合)

3.会場 「Fashion Island, Island Hall 3rd Floor」  
587,589,589/7-9 Ramintra Rd.Kannayao,Bangkok,Thailand 10230

4.宿泊先 「The Grand Four Wings Convention Hotel」 Tel +660 2378 8000

5.日程

1	5/16(土)	17:00	前泊者集合(関西エアポートワシントンホテル) 役員集合15:00
2	5/17(日)	8:45 11:45 15:35	関西国際空港集合(タイ国際航空カウンター) 関西国際空港発 TG623 バンコクスワンナプーム国際空港着 練習
3 ~5	5/18(月) ~ 5/21(木)	23:59	18~19 U17 20~21 U19 (日程未定) バンコクスワンナプーム国際空港発 TG622
6	5/22(金)	7:30	関西国際空港着、解団式、解散(予定 9:00)

6.役員・選手名簿

役職	氏名	所属	備考
団長 男子監督 女子監督	上石 修平 中川 智之 安達 健佑	(公財)全国高体連卓球専門部 山口県・野田学園高等学校 石川県・遊学館高等学校	
男子選手	岩井田駿斗 持田 陽向 馬淵 煌世 宇留島流唯	山口県・野田学園高等学校 愛知県・愛工大名電高等学校 石川県・遊学館高等学校 岐阜県・富田高等学校	
女子選手	日下部詩季 渡会 宥 安藤 海凜 樋口 美空	石川県・遊学館高等学校 大阪府・四天王寺高等学校 広島県・進徳女子高等学校 岡山県・山陽学園高等学校	4/30 キャンセル

## 試合記録

U-17 男子シングルス予選リーグ グループ1 岩井田駿斗(野田学園) 2勝0敗 予選リーグ1位通過

岩井田 駿斗	3	11-1 11-4 11-2	0	Mohamed RAFIU (モルディブ)
岩井田 駿斗	3	11-4 11-7 11-2	0	Jaden CAO (オーストラリア)

U-17 男子シングルス予選リーグ グループ27 宇留島流唯(富田) 2勝0敗 予選リーグ1位通過

宇留島 流唯	3	11-1 11-4 11-2	0	Yousuf HANIFA (サウジアラビア)
宇留島 流唯	3	11-4 13-11 11-9	0	Akshay KIRIKARA (インド)

U-17 男子シングルス決勝トーナメント1回戦

宇留島 流唯	3	11-5 11-5 11-9	0	ONG Zane (シンガポール)
--------	---	----------------------	---	----------------------

U-17 男子シングルス決勝トーナメント2回戦

岩井田 駿斗	3	11-7 11-7 9-11 11-7	1	CHENG Jiyon (中国)
宇留島 流唯	3	11-5 11-5 11-9	0	ONG Khai Chen (マレーシア)

U-17 男子シングルス決勝トーナメント3回戦

岩井田 駿斗	3	11-3 11-7 11-6	0	LAM Sheung Man (中国香港)
宇留島 流唯	3	11-2 8-11 11-8 11-7	1	Sarawut SANGKARAT (タイ)

U-17 男子シングルス決勝トーナメント準々決勝 宇留島流唯(富田)ベスト8

岩井田 駿斗	3	4-11 11-4 11-7 11-6	1	宇留島 流唯
--------	---	------------------------------	---	--------

U-17 男子シングルス決勝トーナメント準々決勝

岩井田 駿斗	3	11-4 16-14 9-11 11-4	1	洪哲硯 (チャイニーズタイペイ)
--------	---	-------------------------------	---	---------------------

U-17 男子シングルス決勝トーナメント決勝 岩井田駿斗(野田学園)優勝

岩井田 駿斗	3	11-9 8-11 11-9 11-2	1	黎騏豪 (中国香港)
--------	---	------------------------------	---	---------------

U-17 女子シングルス予選リーグ グループ17 安藤海凜(進徳女子) 2勝0敗 予選リーグ1位通過

安藤 海凜	3	11-6 11-7 7-11 11-5	1	阮芯諾 (中国香港)
安藤 海凜	3	11-7 11-3 11-7	0	Aradhya DHINGRA (オーストラリア)

U-17 女子シングルス予選リーグ グループ17 渡会 宥(四天王寺) 2勝1敗 予選リーグ2位通過

渡会 宥	1	11-6 7-11 7-11 11-5	3	周玉飛 (中国)
渡会 宥	3	11-6 11-4 11-6	0	WONG Xuen Ying (マレーシア)
渡会 宥	3	12-10 11-4 11-6	0	CHONG Zi Sian (シンガポール)

U-17 女子シングルス決勝トーナメント1回戦

安藤 海凜	1	11-5 9-11 6-11 6-11	3	金珉舒 (韓国)
渡会 宥	3	11-9 11-6 11-6	0	張嘉鈺 (中国香港)

U-17 女子シングルス決勝トーナメント 2 回戦

渡会 宥	1	9-11 11-9 7-11 7-11	3	YAO Ruixuan (中国)
------	---	------------------------------	---	---------------------

U-19 男子シングルス予選リーグ グループ1 岩井田駿斗(野田学園)2勝0敗 予選リーグ1位通過

岩井田 駿斗	3	11-4 11-5 11-9	0	Steven SO (オーストラリア)
岩井田 駿斗	3	11-5 11-4 11-4	0	Kantanut PETSUNTHAD (タイ)

U-19 男子シングルス予選リーグ グループ17 馬淵煌世(遊学館)2勝0敗 予選リーグ1位通過

馬淵 煌世	3	11-5 11-8 7-11 11-7	1	張睿煬 (チャイニーズタイペイ)
馬淵 煌世	3	11-6 11-7 12-10	0	LAU Benjamin (シンガポール)

U-19 男子シングルス予選リーグ グループ18 持田陽向(愛工大名電)1勝1敗 予選リーグ2位通過

持田 陽向	1	4-11 11-7 7-11 9-11	3	LE Ellsworth (シンガポール)
持田 陽向	3	11-1 11-2 11-1	0	Adeepa KEERTHIRATNE (オーストラリア)

U-19 男子シングルス予選リーグ グループ18 宇留島流唯(富田)1勝1敗 予選リーグ2位通過

宇留島 流唯	2	9-11 11-13 8-11 11-4 8-11	3	ZHOU Kaien (中国)
宇留島 流唯	3	11-8 8-11 12-10 13-11	1	IM Jin Zhen (マレーシア)

U-19 男子シングルス決勝トーナメント1回戦

持田 陽向	1	11-7 7-11 7-11 5-11	3	Sarthak ARYA (インド)
宇留島 流唯	2	11-4 11-8 6-11 10-12 9-11	3	余奕慶 (チャイニーズタイペイ)
馬淵 煌世	3	11-7 11-7 12-10	0	NGUYEN Tat Thanh (ベトナム)

U-19 男子シングルス決勝トーナメント2回戦

岩井田 駿斗	3	11-5 11-8 12-10	0	Weerasak SAKAMPEE (タイ)
馬淵 煌世	3	11-6 11-9 11-4	0	PENG Jing En (チャイニーズタイペイ)

U-19 男子シングルス決勝トーナメント3回戦

岩井田 駿斗	3	11-7 11-6 11-8	0	陳凱程 (チャイニーズタイペイ)
馬淵 煌世	3	11-6 11-9 11-4	0	Thitaphat PREECHAYAN (タイ)

U-19 男子シングルス決勝トーナメント準々決勝

岩井田 駿斗	3	11-8 11-2 11-6	0	陳藝舟 (中国)
馬淵 煌世	3	7-11 11-5 11-6 11-8	1	Abhinandh PRADHIVADH (インド)

U-19 男子シングルス決勝トーナメント準決勝 馬淵煌世(遊学館) 3位

岩井田 駿斗	3	11-9 11-6 11-8	0	黎騏豪 (中国香港)
馬淵 煌世	1	3-11 9-11 11-7 6-11	3	XIAO Baixin (中国)

U-19 男子シングルス決勝トーナメント決勝 岩井田駿斗(野田学園) 優勝

岩井田 駿斗	3	12-14 12-10 11-8 11-5	1	XIAO Baixin (中国)
--------	---	--------------------------------	---	---------------------



U-19 女子シングルス予選リーグ グループ 13 安藤海凜(進徳女子)2 勝 0 敗 1 位通過

安藤 海凜	3	11-4 11-8 5-11 11-5	1	胡一 (中国)
安藤 海凜	3	11-9 9-11 11-4 10-12 11-4	2	Pacharaphorn CHANVANITBORIKAN (タイ)

U-19 女子シングルス予選リーグ グループ 20 日下部詩季(遊学館)2 勝 0 敗 1 位通過

日下部 詩季	3	11-7 11-4 11-8	0	阮芯諾 (中国香港)
日下部 詩季	3	11-7 11-2 11-3	0	Nguyen LE (オーストラリア)

U-19 女子シングルス予選リーグ グループ 21 渡会宥(四天王寺)2 勝 0 敗 1 位通過

渡会 宥	3	13-11 12-11 11-6	0	Kulapassr VIJITVIRIYAGUL (タイ)
渡会 宥	3	11-6 11-4 8-11 11-8	1	LIN Huan Ting (チャイニーズタイペイ)

U-19 女子シングルス決勝トーナメント1回戦

渡会 宥	3	11-3 11-4 11-4	0	楊以琳 (中国香港)
------	---	----------------------	---	---------------

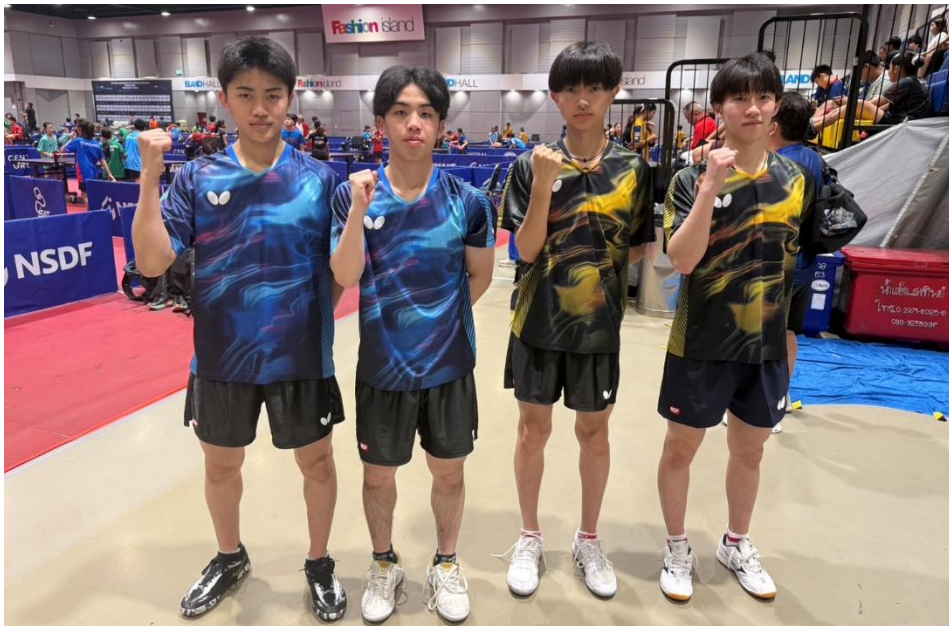
U-19 女子シングルス決勝トーナメント2回戦

日下部 詩季	3	11-9 11-6 11-4	0	Kavya BHATT (インド)
渡会 宥	0	8-11 9-11 7-11	3	LOY Ming Ying(シンガポール)
安藤 海凜	3	11-5 13-11 11-6	0	Hansini MATHAN (インド)

U-19 女子シングルス決勝トーナメント3回戦

日下部 詩季	2	9-11 5-11 11-7 11-7 7-11	3	姜依依 (中国)
安藤 海凜	1	11-2 6-11 5-11 7-11	3	Constantina PSIHOGIOS (オーストラリア)

# 大会スナップ





## WTT ユースコンテナーバンコク(タイ) 2026に参加して

団長 上石 修平(兵庫県立有馬高等学校)

このたび、WTT ユースコンテナー バンコク大会に日本選手団の団長として参加させていただき、大変貴重な経験となりました。また、高体連代表選手が2カテゴリーで優勝を果たしたことを、大変嬉しく、誇りに思います。国際大会という厳しい舞台の中で、最後まで自分を信じ、堂々と戦い抜いた姿は非常に頼もしく、日本選手団に大きな勇気と勢いを与えてくれました。日頃の努力の積み重ねが、この素晴らしい結果につながったものと思います。今回の優勝は、選手個人だけでなく、日本の高校卓球界にとっても大きな励みになる結果です。この経験を今後の成長につなげ、さらに世界で活躍する選手へと成長してくれることを期待しています。

大会期間中は湿気が非常に強く、コンディション調整の難しい環境でした。世界で勝ち抜いていくにはそのような状況でも、臨機応変に対応しプレースタイルを変化させたりすることや、インパクトであったりの技術調整を柔軟にできる選手でないと勝てないと感じました。また、選手によっては移動と連日の試合によるハードなスケジュールの中で、心身ともに厳しい状況が続きましたが、選手たちは最後まで集中力を切らすことなく、自分の力を発揮してくれました。それぞれの選手たちが日の丸を背負い、世界各国の選手と真剣勝負に挑む姿を間近で見ることができました。技術面だけでなく、礼儀や競技に向き合う姿勢、仲間同士で支え合う姿に、日本選手団としての成長を強く感じました。国際大会ならではの緊張感の中で、選手一人ひとりが自分の課題に向き合いながら全力を尽くしていたことは、大きな収穫だったと思います。また、海外選手との交流を通じて、競技力だけでなく国際感覚を養う良い機会にもなりました。

団長としては、選手たちが安心してプレーできる環境づくりを心掛けましたが、私自身も多くの学びを得ることができました。スタッフ、コーチ、所属校の顧問・監督の支えがあってこそ、無事に大会を終えることができたことに感謝しております。一方で、団長として大会に帯同する中で、自分の所属チームではない選手のベンチコーチを務める難しさも実感しました。限られた時間の中で選手との信頼関係を築き、それぞれの特徴や心理状態を把握しながらサポートしていくことは簡単ではありません。しかし、その分、選手たちとコミュニケーションを重ねながら一緒に戦えたことは、自分自身にとっても大きな学びとなりました。

今回の経験を今後の強化や育成につなげ、全国高体連卓球専門部のさらなる発展に貢献していきたいと思えます。

男子監督 中川 智之(野田学園高等学校)

WTT ユースコンテナーバンコク 2026 において、高体連男子監督として帯同しました。

結果としては、U17 男子シングルスでは岩井田が優勝、宇留島がベスト 8 に入賞、また、U19 男子シングルスでは岩井田が優勝、馬淵がベスト 4、持田、宇留島がベスト 64 という結果でした。特に岩井田は U17、U19 の両カテゴリーで優勝を果たし、非常に素晴らしい成果を挙げたと思います。

大会期間中、会場環境については厳しい条件も見られ、時間帯によっては会場のエアコンが停止しており、非常に湿気が多い環境で試合が行われる場面がありました。その影響もあり、敗退した選手の中には守備的なプレーが増えたり、攻撃時に打球点が下がってしまったりする様子が見受けられました。特に、高い打球点で捉えきれず、ラバーとボールがスリップしてミスにつながる場面が多かったように感じます。そのため、今後は湿度の高い環境下でも安定してプレーできるよう、サーブ力の向上、台上技術であるフリックやチキータの精度向上、さらに高い打球点で積極的に攻撃する技術を強化していく必要性を強く感じました。

また、競技面だけでなく、チームとしての雰囲気や協力体制も非常に良かったと思います。試合時間が近い選手に合わせて練習相手を務めたり、勝ち残っている選手を優先してサポートしたりするなど、選手同士がお互いを支え合う姿勢が見られたことは非常に印象的でした。個人競技でありながら、チームとして戦う意識が感じられ、良い遠征になったと感じています。さらに、役員についても男女問わずベンチに入り、状況に応じて柔軟に業務を分担しながら選手サポートを行いました。その結果、選手たちが試合に集中しやすい環境づくりができていたと思います。こうしたサポート体制は海外遠征において非常に重要であり、大会を通じて改めてその必要性を感じました。

今後に向けて一つ改善をお願いしたい点があります。U19 のみ出場する選手については、日程の関係で 2 日間試合がない状況もあり、さらにシングルスで早く敗退した場合、試合数が極端に少なくなってしまう。海外遠征における経験値や実戦機会を増やすという観点からも、U19 のみ出場する選手については、積極的にミックスダブルスへ出場させていただけるよう強く希望します。

私自身、監督としては初めての海外遠征でありましたが、男子 U17、U19 の両カテゴリーで優勝という素晴らしい結果を経験することができました。また、女子選手のベンチに入らせていただく機会や、海外指導者との交流など、多くの学びと刺激を得ることができ、大変貴重な経験となりました。この経験を今後の指導やチーム強化に生かしていきたいと思えます。最後になりましたが、大会参加にあたりご尽力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

今回、WTT ユースコンテNDERバンコク 2026 に昨年に引き続き監督として参加させていただきました。2年連続で同大会に帯同したことで、国際大会ならではの雰囲気や世界の卓球レベルを改めて実感するとともに、日本選手が世界で戦うために必要な課題や成長の可能性をより深く感じる遠征となりました。

昨年初めて参加した際には、海外特有の環境や試合進行、各国選手のプレースタイルに戸惑う場面もありましたが、監督として昨年の経験を踏まえながら選手へのサポートや試合準備を進めることができ、非常に実りある遠征になったと感じています。

大会にはアジアを中心に世界各国から多くの有力選手が参加しており、特に中国、台湾、韓国、インドなどの選手たちのレベルの高さは非常に印象的でした。技術力はもちろんのこと、試合中の判断力やメンタル面、サービス・レシーブからの展開力など、一球に対するこだわりや完成度の高さを強く感じました。また、ラリーの中でも常に積極的に攻め続ける姿勢や、連続してパワーのあるボールを打ち続けられる身体の強さは、日本選手にとって非常に良い刺激になったと思います。

男子では、岩井田選手が U17 および U19 シングルスで優勝を果たし、国際大会の舞台において非常に素晴らしい結果を残しました。カテゴリーをまたいで優勝したことは非常に価値が高く、安定した技術力と勝負強さを示してくれたと感じています。また、馬淵選手も U19 シングルスで 3 位入賞を果たし、日本選手の高い競技力を示してくれました。世界レベルの選手たちとの連戦の中でも、自分のプレーを貫きながら結果を残したことは、今後につながる大きな経験になったと思います。

一方、女子では、安藤選手が U15 世界ユース選手権 2 位の選手を破る活躍を見せ、国際舞台でも十分に戦える力を発揮してくれました。海外選手特有の回転量やパワーに対しても臆することなく積極的にプレーし、自分から攻める姿勢を最後まで貫いたことは非常に印象的でした。今回の勝利は、選手本人にとって大きな自信になるとともに、日本選手が世界で戦う可能性を改めて感じさせる内容であったと思います。

今回帯同した選手たちも、国内大会では経験できないレベルの試合を数多く経験することができました。海外選手特有の回転量やボールの質、テンポの速さに苦戦する場面もありましたが、その中でも自分から積極的にプレーし、持ち味を発揮できた場面も多く見られました。一方で、勝負所での一本の精度や、試合の流れを変える戦術面など、世界で勝つためにはさらに細かい部分の強化が必要であることも再認識いたしました。

また、今回の遠征では競技面だけでなく、生活面や行動面でも大きな成長を見ることができました。海外では言語や文化、食事、気候など、日本とは異なる環境の中で生活する必要があります。そのような状況でも、選手同士で協力しながら行動し、自ら考えて準備を進める姿勢が見られたことは非常に良かったと感じています。国際大会では、卓球の技術だけでなく、人としての対応力や自己管理能力も重要であり、その点でも選手たちにとって大変良い経験になったと思います。

さらに、各国の選手や指導者との交流を通じて、卓球を通じた国際交流の意義も改めて感じました。試合後には国籍を超えてコミュニケーションを取る場面も多く見られ、スポーツが持つ力の大きさを実感いたしました。世界にはさまざまな考え方や卓球スタイルがあり、それらに直接触れることができたことは、選手・指導者双方にとって非常に価値のある経験であったと感じています。

タイ・バンコクは高温多湿の環境であり、体力的にも厳しい条件の中で大会が行われました。そのような中でも高い集中力を維持しながら戦い続ける海外選手たちの姿を見て、フィジカル面やコンディショニングの重要性を改めて認識いたしました。特に湿度の高い環境では、普段とは異なるボールの変化や体力消耗への対応力が求められるため、実戦経験を積むことの重要性を強く感じました。

その点を踏まえ、今後はシングルスだけでなく、混合ダブルスへの出場についてもご検討いただければと感じております。せっかく国際大会に参加する機会をいただいている中で、1 種目のみの出場よりも、2 種目に参加することで試合経験を増やし、海外特有の環境やプレースタイルへの適応力をより高めることができると考えております。特に国際大会では、試合数を重ねることで会場の雰囲気や気候条件に慣れ、精神面・技術面ともに成長する部分が非常に大きいと感じました。混合ダブルスを経験することで、戦術理解やコミュニケーション能力の向上にもつながり、日本選手のさらなる強化に有効であると考えております。

今回、2年連続で WTT ユースコンテNDERバンコクに参加させていただいたことで、世界との距離や日本選手の現在地をより具体的に把握することができました。この経験を今後の指導やチーム強化に生かし、国際舞台でも活躍できる選手の育成につなげていきたいと思っております。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今回得た経験を今後の活動につなげ、選手とともにさらなる成長を目指して努力してまいります。

男子選手 岩井田 駿斗(野田学園高等学校)

今回はタイに出させていだいて、気候など難しいことがあったけど自分の中ではいい大会だったと思いました。卓球面では U-17 の初戦から良いコンディションで試合に臨めました。技術面では、台上のストップ技術やチキータフリックなどを意識しながら試合に臨んでいました。精神面では、いかに落ち着いてやれるかっていうのと相手に圧を与えながら試合をするということをテーマに心がけていました。

感想としては、サーブなどは海外の選手にもとても効き、3 球目も自分の得意な展開に持っていくことができ、かなりサーブ 3 球目の先手が取れたと思いました。レシーブは前よりはストップやチキータの質は上がっていると感じたけど、まだまだこの上で活躍するとなると質が低いなと感じました。しかし、ラリーなどになるとあまりパワーの差や技術の差は感じなく、世界でも戦えるという自信になりました。精神面ではどちらも第 1 シードということもあって相手に向かってこられる立場が多かったけど、冷静に相手に圧を与えながら試合ができたかなと思います。日本選手と当たることもあって、少し気持ち的には難しいところもありましたが、全体を通して絶対負けないんだという気持ちで臨むことができました。

生活面では少しお金がオーバーしてしまったり、スタッフの皆さんに迷惑をかけたりすることがあり、自分の日頃の態度や生活をもう少し見直して、感謝の気持ちを持ちながら毎日の練習に励んでいきたいと思いました。

最後になりますが、今回はこのような貴重な経験をさせていただける機会をいただき、ありがとうございました。

男子選手 持田 陽向(愛工大名電高等学校)

今回、WTT バンコクに出場し、海外大会ならではの難しさを多く感じました。普段日本で使用しているものとは違うボールや卓球台だったため、感覚を合わせることがとても難しかったです。特にボールの弾み方や回転のかかり方が普段と違い、最初は自分のプレーをうまく出すことができませんでした。

また、環境面でも日本とは大きな違いがありました。会場の温度や湿度が高く、練習や試合を通して自分のコンディションを上げることに苦労しました。体力面だけではなく、集中力を保つことも難しく、いつも通りのプレーを継続することの大変さを改めて感じました。そのような環境の中でも勝ち続ける選手は、短時間で環境に適応し、その状況に合わせて戦術を変えたり、自分の気持ちをコントロールしたりして試合を進めているのだと感じました。

自分自身はまだ環境への適応能力が足りず、少しうまくいかなくなるとプレーが崩れてしまう場面が多くありました。そこを改善していきたいと思います。今回は、ありがとうございました。

男子選手 馬淵 煌世(遊学館高等学校)

この度は WTT ユースコンテンダーバンコクに参加させていただきありがとうございました。

自分は初めての海外での試合だったので食事面でも卓球でも不安がありました。ですが、食事面ではショッピングモールの中にある日本食を食べることができて、ホテルの食事も美味しかったので安心して食べることができました。卓球面では、会場の湿気があったりボールや台もいつもとは違ったりと慣れるのに時間がかかりました。ですが、U19 が始まるまでに時間があったのでそこで調整することができました。予選リーグを 1 位で通過できて決勝トーナメントでは 4 回勝つことができて結果は 3 位でした。正直自分でもそこまで勝ち上がると思っていなかったのが嬉しかったです。

海外の選手と試合をしてみて感じたことは両ハンドドライブのパワーがあること、1 球 1 球の質が高いこと、3 球目攻撃の決定率が高いことです。なので、これからはたくさんご飯を食べて体を大きくして、練習の時に 1 本も無駄なボールを打たずに全てのボールに気持ちを込めて練習します。そして、自分のサーブからの展開で点数を落とさないように練習していきたいと思います。今回撮った試合の動画を振り返って他国の選手と比べて自分に足りない所などを見て、練習で工夫して練習していきたいです。また、他国の選手とコミュニケーションをとることができ、とても貴重な経験をさせて頂きました。

今回の WTT ユースコンテンダーバンコクを通して今の自分の足りない技術や逆に通用する技術を知ることができました。他国の選手だけでなく日本の選手もみんなレベルが高く沢山学ばせて頂きました。今大会の反省点を次の大会までに克服していい結果を出せるように頑張ります。

この度は WTT ユースコンテンダーバンコクに参加させていただきありがとうございました。

男子選手 宇留島流唯(富田高等学校)

このたび、WTT ユースコンテンダーバンコクに出場させていただき、本当にありがとうございました。また、このような機会を与えてくださった全国高体連、引率してくださった役員の皆様、支援していただいた学校関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

今回が私にとって初めての海外遠征となりました。異なる文化や環境の中で試合をして、日本では得ることのできない経験をたくさん積むことができました。

大会では、U17 でベスト 8、U19 では決勝トーナメント一回戦敗退という結果になりました。特に印象に残っているのは、U19 の一回戦で対戦した世界ユースの代表選手との試合です。試合序盤は積極的なプレーをして、2 ゲーム先取することができ、自分の力が十分に通用することを実感できました。しかし、そのあとは戦術に対応され、勝負所での相手の積極性が高く、逆転負けを喫しました。この試合の結果を受け、試合の流れが変わった時の対応力や戦術の幅、勝負所でのプレーの正確性など、自分に不足しているところが明確になりました。自信を得ることができた反面、新たな課題も見つかри、今後さらに強くなるために取り組むべきことがはっきりした遠征となりました。

また、何よりも一番の収穫は、日本と海外の卓球に対する考え方やプレースタイル、試合までの準備の仕方などの違いを肌で感じる事ができたことです。映像だけではわからない海外選手の強さを実際に体験し、日本と海外の違いを強く感じる事ができました。この経験は今後の選手生活で大きな財産になると考えています。

今回の海外遠征で得た経験を今後の練習や大会に生かし、さらに高いレベルで活躍できる選手を目指して努力していきます。そして、また WTT に出場できるよう様々な大会で成績を出していきたいと考えています。

改めて、このような機会をいただき、本当にありがとうございました。

女子選手 日下部 詩季(遊学館高等学校)

今回は WTT ユースコンテンダーバンコク大会に出場する機会をいただき、本当にありがとうございました。

私は U-19 のカテゴリーに出場をさせていただき、ベスト 16 という結果でした。

昨年より成績が上にいけたことは良かったのですが目指しているところは優勝やベスト 4 に入ることだったので壁を越える事ができず、凄く悔しいです。

今回の試合は自分の中で凄く良い経験になりましたし、今後に繋がる試合ができたのかなと個人的には思います。私は勝敗を意識しすぎて冷静に試合をする事ができなかったのですが、今回は勝敗よりも戦術にフォーカスして試合をする事を目的として今回の試合に臨みました。私は優勝をした選手に負けてしまったのですが、凄く悔しいと思う反面、まだまだトップレベルの選手に比べたら練習の質や意識が低いなと感じました。ゲーム数 2-2 で点数 3-1 リードから捲られてしまい、後一步というところで日頃の自分へのあまさを卓球を深掘りして常に考えるという意識が不足しており、今回の負けに繋がってしまったと思います。

今回の経験をプラスに捉え、また自分に自信を持ち、トップレベルの選手に圧倒的に勝てる力をつけられるように日々、前進していこうと思います。またこの舞台に立てられるように頑張りたいと思います。

最後になりますが、今回はこのような貴重な経験をさせていただける機会をいただけたこと、また監督さんや役員の方々が自分達のサポートをしてくださったこと、本当に感謝しています。お忙しい中、自分達の為にサポートをして下さり、本当にありがとうございました。恩返しができるようにこれからももっともっと頑張っていこうと思います。本当にありがとうございました。

女子選手 安藤 海凜(進徳女子高等学校)

この度は、WTT ユースコンテNDERバンコク 2026 にご参加させていただき、心より感謝申し上げます。

私は、国際大会に出場するのは初めてで U17 U19 ふたつのカテゴリーに挑戦し、予選リーグから中国、インド他にも様々な国の選手と対戦いたしました。

特に印象に残ったのは、海外選手の球威、緩急の付け方です。海外選手は長身の方が多く、パワーがあり、ブロックしようとしても簡単には止めることができませんでした。特に中国人選手は基礎的な部分が徹底されており、フットワーク力や体幹の強さ、一球一球のボールの質がやはり違う事を実感しました。

緩急の面では、実際に U19 で対戦させていただいたオーストラリアの選手も、手足の長さを活かし、後陣からのプレーでも、回転が強く(緩と急を使い分けられた)スピード感のあるボールを、コースに変化をもたせて出す事が出来ていました。その対応に苦労し、ラリーに持ち込めても私の精度の不安定さが顕著に表れてミスに繋がった事が課題として残りました。

今回海外選手の球の質や、サーブの多様さ、試合の進め方(コース取り)など、様々な面で視野が広がり、自分の今の実力、対応力、そして新たな課題など認識する事が出来ました。この経験が次へのステップへと繋がるように、今後さらに邁進していきたいと思います。

このようなチャンスを与えて下さり、選手としての経験値を高める事が出来たのは、予選から大会への準備を下さった高体連卓球専門部の先生方のお力添えのおかげです。そして、バンコクまで引率をして、大会期間中の生活でも安全面などご配慮して下さい、大会会場でもサポートしていただいた団長の上石先生、男子監督の中川先生、女子監督の安達先生、皆様に感謝いたします。

また、一緒に戦った日本人選手の皆様にも大変お世話になりました。見習うべき行動や、卓球に向き合う姿勢、戦術など多くの学びがありました。本当にありがとうございました。

女子選手 渡会 宥(四天王寺高等学校)

私は海外に行く事が初めてだったので、時差を調整したり、食事の調整をしたり、凄く大変だと感じました。また、台やボールも全然違ったので最初は慣れるので精一杯でした。

試合をしていく内に少しずつ慣れていき、プレーも良くなっていったので対応能力は少し上がったと感じました。ですが、1 試合目から自分のプレーをしなければいけないので、もっと早く慣れる事が大切だと分かりました。

海外の選手と試合をする事も今までほとんどなかったのですが、海外の選手はボールの威力も凄いいし、セットした場面で最後の 1.2 本をなかなか取らせてくれなかった印象があります。世界で勝つ難しさを実感しました。

海外の選手とは体格も違うので、私は、打点の速さ、コース取り、ブロック能力を上げる事を意識してこれから練習に取り組んでいきます。また、駆け引きをして、相手の逆をついたり出来るように意識してこれから取り組んでいきます。

私は U17 も U19 も 2 回戦で負けてしまい、とても悔しかったし、もっと沢山試合をしたいと思いました。ですが、タイでの試合期間は自分のコーチでもないのにベンチに入って下さり、また、色々な方々のサポートがあったからこそ良い経験を積む事が出来たので、サポートして下さい下さった方々への感謝の気持ちを強く感じました。

世界の舞台でプレーする為にはまず、国内で上位に行き、世界でも勝てる実力をつけていきたいです。今大会の経験を活かして、周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、夏のインターハイに向けて頑張ります。